

積まれる訳 書店員分析



「積ん読している本の多くは、購入した動機を一冊一冊覚えていない。いつかは読むぞと思うんです」と話す古川さん

福島民友新聞掲載

西沢書店（福島市）の取締役、古川博さん（52）は、書店員生活が四半世紀を越す。その本のプロに、積ん読の私の「傾向と対策」を聞いた。

古川さんの現況は「本を積み過ぎて部屋に全部は置けず、物置に入れた。それで（本を探そうとしても）発見できない」。重症の様子で「なので、ここ数年の（積ん読中の）本を持ってきまして」と本の山を指す。山の本は①全く読めていない②少し読んでそのまま

③読んだかどうか忘れた④持っているのを忘れ、また買った⑤の4種類。山ができる要因は、本の性格も関係し、古川さんの場合①古典②急ぎはしないので購入後、安心してしま③シリーズ④読みたくて買うが（巻数が多く）なかなか読み出せない⑤例外⑥「虞美人草」「明暗」は全集本が手元に2冊ある。これからは読むぞと買って20年たちます。『これから』という小説ができて浅田次郎の文庫版「中原」ないことか。

「読める本の量は限られ、今さら読むことはない本もある」と古川さんは言う。ただ「積まれた本の多くは、なぜ『読まねば』と思ったのか動機は今も明確」と目を細める。

最後に古川さんが「今年これだけは読みたい」本は、愛する夏目漱石の「道草」「虞美人草」「明暗」は全集本が手元に2冊ある。これからは読むぞと買って20年たちます。『これから』という小説ができて浅田次郎の文庫版「中原」ないことか。

記事から知り得たこと

調べてわかったこと、考えたこと（330字程度）

疑問に思ったこと、調べてみたいこと

3人の方の本への思い、それぞれに考えさせられますね。
あなたは「何読」派ですか？

